

市民アンケート調査の実施要領（案）

1. 調査の枠組み

（1）調査の目的

丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」（案）の検討にあたり、市民の生活行動に関する現状、地区や地域の生活環境に関する問題意識や市民ニーズ、評価などを把握するため実施する。

合わせて、20年後の丹波市の姿を描くための取組であることをアピールする（回答頂けなかった人に対しても直接配付によるアピール効果をねらう）。

（2）実施スケジュール

設問検討、郵送手続：平成30年9～10月

調査票設計、印刷：平成30年10月

調査票配布、回収：平成30年11月（記入期間2週間（+1週間延長）、督促なし）

回答データ入力：平成30年12月

集計、分析：平成31年1月

結果とりまとめ：平成31年2月

（3）対象

18歳以上69歳以下の市民3,000名（無作為抽出、回収率3～4割を想定）

（4）配布・回収方法

郵送

（5）配布資料

依頼文書A4版 1枚

調査票：A4版 4ページ程度

（6）調査のまとめ

単純集計及びクロス集計（年代別、6地域別、居住年数別）を行い報告書を作成

2. 設問項目と概要

(1) 基本的な問題意識の表明

- ・設問に入る前に、今回の「未来都市構造（まちづくりビジョン）」検討の背景となる問題意識を示し、回答にあたっての前提として認識していただく。
- ・内容としては、審議会で示した課題内容から要約して示す（人口減少、少子高齢化、財政的制約など）。

(2) アンケートの概要

番号	設問項目	質問内容	結果の活用・反映
1	回答者の性別、年代、居住地、居住年数	回答者の属性を聞く	回答者の属性を把握する →クロス集計に活用する
2	現在の生活行動の状況	買い物、通院、通勤通学等の現状（主な行き先、交通手段等）を聞く	現在の日常生活行動の特徴、生活行動から見た都市構造を把握する →都市構造等に関する現状や課題等に反映する
3	お住まいの地区・地域の状況	地域における生活環境について、分野ごとに現状の評価や満足度、将来的な問題意識等を聞く	身近な生活環境に関する市民の評価、問題意識、ニーズを把握する →現状・課題の整理、関連施策の方向性の検討等に反映する
4	将来の都市構造の基本的なあり方	第1回審議会資料で提示した3つの将来方向性（A,B,C案）について意向を聞く	審議会で意見集約したB案についての市民的賛同状況（数的）を把握する →基本的な方向性の確認に活用する
5	中心部と周辺部の機能分担のあり方	中心部にあると良い機能、周辺部にあると良い機能について聞く ※設問は、身近な生活圏にあると良い機能（周辺部）、交通の便の良い場所にあると良い機能（中心部）のように分かりやすい表現に工夫する	生活者目線からの機能分担のニーズを把握する →中心部と周辺部の都市機能分担のあり方に反映する →周辺部の機能については地域拠点や生活拠点のあり方にも反映する
6	20年後の暮らしの姿やまちの姿	将来、望ましいと思う暮らしやまちの姿について聞く ※選択肢は「〇〇なまち」などの形で、長すぎないように留意する	将来のまちや暮らしに関する市民のイメージやニーズを把握する →まちづくりビジョンの中心となるまちの姿と暮らしの姿に反映する
7	自由記述	まちづくりに関する現状、今後の想定、対応策等について、自由記述をしてもらう	自由記述なので統計処理はせず、カテゴリごとに一覧整理する →暮らしの姿とまちの姿（関連施策による取組）の整理にあたって参考とする